

令和2年9月市議会定例会 一般質問

# 個別質問答弁書

質問第21号

宮下 省二

議員

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	資源循環型施設建設関連事業課
質問要旨				答 弁			
1 資源循環型施設建設についての質問				南部終末処理場内に建設を計画している「し尿前処理下水道投入施設」につ			
(1) 資源循環型施設建設について				きましては、平成27年から地元下之条自治会の皆様にお越し、平成30年			
ア 資源循環型施設は、公共用地である清浄園用地を建設候補地として計画されている。				4月の土屋市長就任以来、市長自ら南部終末処理場の現地確認や施設の検討会			
現在清浄園で行っている「し尿等の処理業務」を下之条地区の南部終末処理場内に「し尿前処理下水道投入施設」として新たに建設し、処理を行うとしている。				などに出席をし、何度も話し合いを積み重ねてきました。			
・地元からの地域振興の要望はどのように検討しているか。				自治会の皆様とは、これまで「協定の締結」、「安全・安心な施設設計」そして「下之条の地域振興」について、話し合いを行ってきた中、7月に市長から「施設の建設同意に係る申し入れ」を正式に行い、先月8月には市長出席での住民説明会を開催し、施設の設計や地域振興策の最終案を提示しました。			
・地元協力金、施設に関する協定締結、各事業の実施時期をどのように考えているか。				説明会では、自治会の見解として「し尿前処理下水道投入施設」は「市民にとって欠かせない施設であり、どこかの自治会が引き受けなければならないこと。」「引き受けた自治会にはメリットがあるものにする。」と言った理念のもとに合意され、建設・運営することができれば、上田市民の期待も背負った歴史的な第一歩となる施設になるのではないかとのお話もいただきました。			
・令和元年東日本台風等により被災した類似施設を参考にして、洪水対策をどのように検討して対応するか。							

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	資源循環型施設建設関連事業課
質問要旨				答 弁			
				<p>市政を推進するためには、「つながり」や「市民力」といった視点が大切であるとの信念に基づき、土屋市長自らが現地に直接出向き、自治会の皆様と話し合う中で、対話を重視した「つながり」や、市民全体の課題として取り組む「市民力」の考えを通じて、自治会の皆様との信頼関係を築いてきたものと認識しています。</p> <p>また、職員も、土屋市長の「相手の身になって考える力となる共感力を持って、市民の想いを受け止め、市政に活かせ」との指示のもとで取り組んできました。</p> <p>こうした取組により、現在、建設受入について、自治会の皆様の御判断を待つ状況であり、最終的な局面を迎えていますが、市内で唯一となる「し尿前処理下水道投入施設」を受け入れていただくことを重く受け止め、地域振興の御要望につきましては最大限その実現に努めていきます。</p>			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	資源循環型施設建設関連事業課
質問要旨				答 弁			
				<p>「地元協力金の交付」については、施設の周辺地域の生活環境の保全及び増進に配慮するといった主旨から、自治会と「地元協力金に関する協定」を締結し、それに基づき、工事着手年度から交付をしたいと考えています。</p> <p>その後は、双方合意の中で協定を更新しながら交付を続けていきます。</p> <p>なお、現在、広域連合で運営している清浄園においても同様な手続きで交付をしています。</p>			
				<p>「施設に関する協定」については、「公害防止に関する協定」と、先ほどの「地元協力金に関する協定」をそれぞれ自治会と締結させていただくことになります。</p> <p>協定の締結時期は、今後、予定している詳細設計や工事など、事業の進捗状況を踏まえながら、自治会の皆様との話し合いの中で決めていきたいと考えています。</p>			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	資源循環型施設建設関連事業課
質問要旨				答 弁			
				<p>また、地域振興策として要望いただいた事業の中には、関係機関への働きかけや市内全体の課題など、時間をかけて検討していかなければならないものもありますので、進捗状況を定期的に自治会の皆様に御報告をしていきたいと考えています。</p>			
				<p>洪水対策につきましては、昨年の令和元年東日本台風では、千曲川流域の各地に甚大な被害をもたらしましたが、長野市赤沼にある千曲川流域下水道終末処理場「クリーンピア千曲」も約2mの浸水があり、被災しました。</p>			
				<p>県の復旧方針では、「100年に1度」の洪水を想定して、最大5メートルの浸水に耐えられるよう、防水扉の設置や電源設備を高い場所への移設等を行い、浸水対策の強化を図るとしています。</p>			
				<p>本施設の洪水対策につきましても、「クリーンピア千曲」と同様、「100年に1度」の洪水想定である「河川整備の目標とする降雨」による想定浸水の</p>			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	資源循環型施設建設関連事業課
質問要旨				答 弁			
				<p>深さ0.5～5mを基準とする考えです。</p> <p>そのため、施設設計では、5mの浸水が発生しても被害を最小限に抑えられるよう、重要機器が集まる電気室や中央監視室は5m以上の高さとなる、施設の2階に配置するなど、専門家等からのご意見をいただきながら対策を講じていきます。</p>			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	資源循環型施設建設関連事業課
質問要旨				答 弁			
イ 土屋市長の就任以降、専門家を交えた組織として資源循環型検討委員会を発足し、9回にわたり環境に配慮した施設建設の検討について慎重に審議を行った。その内容を7月から8月にかけて資源循環型施設建設候補地周辺の住民の代表である委員自ら各自治会の住民に対して報告を行った。				これまで、8月23日には上塩尻自治会及び秋和自治会、8月29日には下塩尻自治会において、自治会の御協力をいただいてそれぞれの地元の会場で開催するとともに、今月6日には、広域連合及び市から郵送により直接、お知らせし、諏訪部地域の住民の皆様を対象として清浄園にて説明会を開催しました。			
現在、行政主催の住民説明会を実施しているが、開催状況や今後の予定、各会場の反応はどうか。				また、今月27日には、西部地区を対象として、来月1日及び5日には、上田広域連合管内を対象とした説明会の開催を予定しています。			
また、洪水対策についてはどのように考えるか。				これまでの説明会では、環境影響評価への着手や今後の取組などの「資源循環型施設建設の基本方針」を説明させていただき、御理解をお願いするとともに、参加者の皆様との質疑応答及び意見交換を行いました。			
				住民の皆様からは、千曲川水害への防災対策、諏訪部地域への働きかけの継続、生ごみ減量の推進への御意見が多かったほか、建設候補地の選定経過、迷惑施設の集中へ懸念などからの反対の御意見や、施設の必要性や多額のごみの処理費用から、早期の事業推進を求める御意見などをいただきました。			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	資源循環型施設建設関連事業課
質問要旨				答 弁			
				<p>説明会でいただいた御意見については、真摯に受け止め、今後の取組に活かしていくとともに、より多くの皆様に資源循環型施設の建設について、御理解と御協力をいただけるよう努めていきます。</p>			
				<p>洪水対策については、100年に1度の降雨による浸水想定深さ0.5m～1mの洪水では、浸水を防ぎ、ごみを焼却する機能を失わない構造とします。</p>			
				<p>想定される最大規模である1000年に1度の降雨による浸水想定深さ5.0m～10mの洪水では、浸水があっても主要設備を守り、速やかに回復することのできる構造を目指します。</p>			
				<p>現時点では、造成高を上げ、ごみピット、灰ピットなどへの浸水や外部への流出を防止すること、重要機器や電気設備を浸水被害の影響の少ない位置へ配置すること、主要部分へ防水扉を設置することなどが考えられます。</p>			
				<p>今後、地形測量や施設基本設計を行うなかで、更に具体的に検討していく考えです。</p>			



上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	資源循環型施設建設関連事業課
質問要旨				答 弁			
<p>工 迷惑施設を設置した場合、周辺土地の流動性が低下するため施設の建設に反対する傾向がある。</p> <p>令和2年3月の一般質問では、地域振興策の一環として多種多様な土地利用を図るために用途地域の変更の可能性を明らかにしたが、今回の資源循環型施設建設に関わらず、西部地区のまちづくりの基本である地域活性化策の一環として行うべきと考えるが、どうか。</p> <p>また、西部地区に公共施設の設置をはじめとする地域振興策等についての協議の場を設置する考えはどうか。</p>				<p>清浄園用地の周辺の都市計画による用途地域の変更は、地域活性化のための有効な手段の一つと考えています。</p> <p>資源循環型施設建設を契機としたまちづくりの観点からは、施設周辺だけでなく、より広い範囲で検討を行っていくことが必要であり、地域振興の全体計画の中で、関係する皆様とも話し合いながら、考えていきます。</p> <p>地域振興施設等に関する協議の場については、今般の説明会においても地元地域の皆様には、これまでの資源循環型施設建設の「安全・安心」を主とした話し合いに、今後は、地域のまちづくりについても加え、2つの柱として、定期的に話し合うための組織を設けることをお願いしました。</p> <p>地域振興に関しては、地元地域の皆様との話し合いを開始し、その状況を整理したうえで、西部地区での協議についても検討をしていきます。</p>			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	廃棄物対策課
質問要旨				答 弁			
1 資源循環型施設建設についての質問				市内にある上田・丸子の各クリーンセンターについては、上田地域広域連合の所管ですが、上田市としての立場から答弁します。			
(1) 資源循環型施設建設について							
ウ 市内の各クリーンセンターは耐久年数である20年から25年をすでに超過し、いつ機能停止になってもおかしくない状況の中で懸命の延命措置を行っているが、今後、建設稼働までに7年余かかるとした場合、合計でどのくらいの修繕費を見込んでいくのか。				上田クリーンセンターは昭和61年4月に、また、丸子クリーンセンターは平成4年4月にそれぞれ稼働を開始しており、上田クリーンセンターは稼働から34年、丸子クリーンセンターは28年が経過しています。			
				一般的に、ごみ焼却施設の耐用年数は20年から25年とされており、両クリーンセンターとも、その期間を超えての操業となっています。そのため、安全で安定した操業を継続するために必要な修繕等を実施しており、ここ数年の修繕費が大幅に増えている状況です。			
				また、修繕の際、交換部品の生産停止等による調達コストの増加も、修繕費の増大に拍車をかけているとのことでした。			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	廃棄物対策課
質問要旨				答 弁			
				<p>両クリーンセンターでは、施設の現況とともに機能の状況を把握するための「精密機能検査」を定期的に行っており、その検査結果や施設・設備等の定期点検の報告等をもとに、後年度の修繕計画を立てています。</p>			
				<p>今後、建設稼働までに7年余かかるとした場合の修繕料の見込みですが、両センターの直近5年間の修繕費の平均が、上田クリーンセンターが約2億円、丸子クリーンセンターが約1億4,000万円、合計3億4,000万円前後で推移していくものと思われ、来年度以降7年間の合計で、概ね24億円程度を見込んでいるとのことです。</p>			
				<p>後年度の修繕計画及び修繕費については、各設備の老朽化が進んでいることから、精密機能検査の結果だけでなく、毎年実施している年次点検の内容等も踏まえ、年度ごとに詳細な精査を行いながら適切に進められていくものと考えています。</p>			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	廃棄物対策課
質問要旨				答 弁			
(2点目)				両クリーンセンターでは、「精密機能検査」の実施及び日常的な点検等により、不具合箇所の早期発見・早期対処に心がけ、操炉に影響が出る前の段階で対応を図っており、「操炉停止」とならないよう、日々安全かつ適正な運転管理に努めているとのことです。			
機能停止した場合に各家庭から出される燃やせるごみの処理について、どのように対応すると考えているか。				また、上田クリーンセンターでは、ごみの搬入の多い時期や、定期点検による機械整備等に伴う2炉ある焼却炉の休炉期間を除き、年間概ね320日程度は1炉運転で操業し、もう1炉を休炉させることで、炉の延命化を図りながら、今後においても2炉同時に操炉停止としないよう対応していると聞いています。			
				しかしながら、操炉停止となった場合、市民の皆様の日常生活に多大な影響を与えることから、上田市としても、万一の事態に備えた対応を検討される必要があると考えています。			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	廃棄物対策課
質問要旨				答 弁			
				<p>万が一「操炉停止」となった場合については、市民の皆様への影響を最小限に抑えるため、県内あるいは県外のごみ処理施設への処理依頼などの調整を速やかに行うことなども重要な対応策であると考えています。</p>			
				<p>また、その際に必要となる経費についても、多額の費用が想定されることから、危機管理の観点からも、近隣の自治体や県との連携を図っていく必要があると考えています。</p>			
				<p>上田・丸子の両クリーンセンターは、市民の皆様の快適な生活環境を維持していくために必要不可欠な施設であることから、上田市としても、今後も上田地域広域連合と密に連携を図りながら、安全・安心・安定的な施設の運営が維持できるよう協力していきます。</p>			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	資源循環型施設建設関連事業課
質問要旨				答 弁			
1 資源循環型施設建設についての質問				<p>現在、開催している住民説明会において、資源循環型施設建設を市政の最優先課題として、市長が「曲げることなく覚悟を持って取り組む」との決意を改めて申し上げるとともに事業の推進に向けた御理解と御協力をお願いしています。</p> <p>また、説明会でいただいた御意見や御要望については、上田地域広域連合とともに、市としても、真摯に受け止め、今後の取組に活かしていきます。</p> <p>今後は、西部地区及び上田地域広域連合の圏域全体を対象とした説明会を予定しており、更に多くの住民の皆様へ御説明し、御意見や御要望をお聞きしていきます。</p> <p>環境影響評価実施については、全ての説明会が終了した後、適切な時期に、上田地域広域連合として、判断をしていくものと考えています。</p>			
(1) 資源循環型施設建設について							
ウ 資源循環型施設建設に伴う環境影響評価の実施時期を把握しているか。							

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	ごみ減量企画室
質問要旨				答 弁			
1 資源循環型施設建設についての質問				生ごみリサイクル推進プランは、燃やせるごみの減量を図るため、その約4割を占める生ごみを「処理」から「利用」にシフトして、農業を起点にまちの活性化を図り、資源の循環利用や温室効果ガスの排出抑制などの統合的な取組を推進することにより、持続可能な社会の実現を目指すものです。			
(1) 資源循環型施設建設について				ごみの焼却処理量が減少することによって、新たに計画する資源循環型施設の規模がコンパクトなものになり、排ガス量やごみ搬入車両がそれぞれ減じるなど地域の環境負荷が低減します。			
オ 7月に上田市廃棄物処理審議会から答申があった生ごみリサイクル推進プランについて、課題をどのように捉えて、生ごみの自己処理や堆肥化、バイオマス化を進めていくのか。また、上田地域広域連合管内の他の自治体の施設では生ごみ処理に余裕があるとのことだが、民間施設も含めて幅広く検討を行う考えはどうか。				この推進プランの概要は、3Rの優先度に従い買い物や調理段階からなるべく生ごみを減らす発生抑制、それでも発生した生ごみを庭や畑などで自己処理する排出抑制を全市域での取組の基本としています。その上で、庭や畑がなく自己処理が困難な地域では、市が生ごみだけを特別に分別収集して焼却せずに資源化するというものです。			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	ごみ減量企画室
質問要旨				答 弁			
				<p>生ごみ資源化の主な手法としては、飼料化、肥料化、バイオガス化があげられます。飼料化は、家畜のえさとして利用するため、正確な分別と鮮度が求められ、事業系ごみに適します。堆肥化は、分別や鮮度において飼料化より低く、実績・事例も多く、農業利用が可能です。バイオガス化は、生ごみの他、下水道汚泥やし尿などを含めた複合的な処理がなされることが多く、施設整備コストが大きく、事業実施までは時間を要しますが、ガスの熱源利用や発電などの価値を創出します。なお、処理施設が特定の地域に集中することがないように配慮が必要です。</p>			
				<p>これらの手法について、資源循環型施設のコンパクト化のためにも、なるべく早く減量施策に着手することが必要ですので、生ごみの資源化に至るまでの時間軸や容易性、施設整備や生成物の利用などを総合的に検討した結果、堆肥化が望ましいとしています。</p>			



上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	ごみ減量企画室
質問要旨				答 弁			
				<p>生ごみリサイクルを推進するうえでの課題については、「市民の協力」、「資源化施設の確保」、「生成資源の活用」の3点があげられます。</p>			
				<p>「市民の協力」については、市内全域で生ごみの自己処理を推進していただき、自己処理が困難な地域では生ごみを一手間かけて分別してもらう必要があります。分別収集については、できるだけ多くの方が参加しやすい容易な方法により収集し、スモールスタートを旨としてエリア拡大を急がず、理解と実践が得られた地域からの段階的な実施を考えています。</p>			
				<p>「資源化施設の確保」について推進プランでは具体的な場所の選定について言及していません。「所有から利用」の視点から既設や民設利用、公設など幅広く検討するとしています。場所ありきの計画では、選定した地域の戸惑いや混乱を招く恐れがあるため、選定にあたっては臭気などの環境対策に万全を期した上で、地域の皆さんと折り合うことができるように、対話を重ね理解が深まるように進めたいと考えています。</p>			

上田市議会一般質問【個別質問】・答弁書

令和2年9月 定例会

質問通告番号第	21	号	質問議員	宮下 省二	議員	担当課	ごみ減量企画室
質問要旨				答 弁			
				<p>生成資源の活用につきましては、持続的な活用先の確保が重要です。堆肥は家庭菜園を含む農業需要があり、農業振興の一助になると考えます。</p>			
				<p>なお、上田地域広域連合内の自治体が所有する生ごみ資源化施設の利用については、圏域の資源を共同で有効利用することは、定住自立圏や地域循環共生圏の考え方にも沿うもので合理性があり、求められる速やかな取組にもかなうものと考えます。ただし、実施に向けては、先方の事情や現在の状況、課題などについて慎重に検討する必要があります。</p>			
				<p>生ごみの資源化については、市の諮問に応じ、廃棄物処理審議会およびその部会となる生ごみリサイクル研究委員会も設けて、市民主体の委員により市民本位の計画として「生ごみリサイクル推進プラン」が市に答申がされましたので、様々な可能性を探りながら、できるだけ速やかにリサイクルのカタチとして示せるように取り組んでいきます。</p>			